

令和7年度 年間指導計画・評価計画（1年 国語）

	教材名・指導目標・国語活動	学習活動	評価規準
4月	野原はうたう 言葉がもつ価値に気づくとともに、思いや考えを伝え合おうとする。	詩の作者である生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。 気に入ったところを、どのように音読したかをグループで話し合う。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。
	情報整理のレッスン 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。	2情報を比較・分類する方法を確かめる。 ①比較する（表）、②分類する（ラベリング）、③分類して比較する（ベン図）、④順序や流れを整理する（フローチャート）を確認し、適した方法を理解する。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。
5月	ダイコンは大きな根？ 説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。	十の段落が、それぞれ文章全体の中でどんな役割を果たしているか考える。考えたことを発表し合う。・わかりやすく説明するための筆者の工夫について、考えたことを発表する。	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。
6月	ちょっと立ち止まって 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。	文章の構成に着目し、その効果を考える。結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。
	話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する。	「自分の好きなこと（もの）」の中から、紹介したい話題を一つ選ぶ。構成案を基に、スピーチメモを作る。視線を前に向け、聞き手の反応を見ながら話す。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。
	文法への扉 1 言葉のまとまりを考えよう	「言葉の単位」を読み、「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の違いと各々の特徴を理解する。	【知・技】単語の類別について理解している。
	情報を集めよう 情報を読み取ろう 情報を引用しよう 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	1 調べる内容を絞り込む 2 調べ方を考え、情報を集める 3 情報を読み取る 4 情報の適切な引用のしかたを考える。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。
7月	大人になれなかった弟たちに…… 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。	描写に着目して登場人物の心情を捉える。 表記に込められた、作者の意図を考える。「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」を片仮名表記にした、作者の意図を考える。題名のもつ意味について考える。・作品の時代背景を踏まえて、題名のもつ意味について話し合う。	【思・判・表】場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 【態】登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもっている。
	読書を楽しむ 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	読書記録を基に本を決め、必要な情報を選択して、本の魅力が伝わるように紹介する。	【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
9月	比喩で広がる言葉の世界 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。	「比喩」が、文中で、どのように定義されているかを確かめる。筆者が挙げている比喩の二つの効果を具体例とともにまとめる。	【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。
	星の花が降るころに 場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合う。	「私」を中心に作品の内容を押さえる。・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品をいくつかの場面に分ける。・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。	【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。

10月	方言と共通語 共通語と方言の果たす役割について理解することができる。	教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。
	「言葉」をもつ鳥、シジウカラ 文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることができる。	事実を示す文末表現と、仮説を述べるときの文末表現の違いに着目する。・「仮説・仮定・予想」「検証・証明・裏づけ」の言葉の意味や使い方の違いを考える。	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。
	根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	図表などを引用してレポートを作成する。・自分の考えに説得力をもたせるために資料を引用し、レポートの構成に沿ってまとめる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【態】文章の構成や展開を粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
11月	話題や展開を捉えて話し合おう グループ・ディスカッションをする 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる	司会と書記を決め、グループで話し合う。・話題と目的を確認し、意見を出し合う。・模造紙や付箋紙を使って、出し合った意見を整理し、結論をまとめる。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。
	蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。	古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。古典の文章について、現代の文章との違いを確かめる。・仮名遣いの違いを確かめる。・文末の言葉の違いを確かめる。・現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味を確かめる。3 描かれている古典の世界を想像する。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【態】進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。
12月	書初め 楷書と行書の特徴を理解しながら書初め作品を作成する。	楷書は、字形や漢字と仮名の文字の大きさに気を付けて書く。 行書は、点画の連続と変化を考えながら書く。	【知・技】適切な筆遣いや字形、漢字と仮名の文字の大きさに気を付けて書いている。
1月	今に生きる言葉 故事成語を使って体験文を書こう 漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。	漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ。本文を読み、故事成語について理解する。・「矛盾」がどんな故事に由来し、どんな意味で使われるようになったかを説明する。故事成語を使って、体験文を書く。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。
	「不便」の価値を見つめ直す 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章を工夫する。	筆者の考えを要約する。・読んだことがない人に説明するつもりで、筆者の考えを200字程度で要約する。・友達どうして要約を読み合い、助言し合う。 根拠を明確にして、意見をまとめる。	【思・判・表】・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 【態】積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。
2月	文法への扉2 言葉の関係を考えよう 単語の類別について理解することができる	「文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」を理解する。	【知・技】単語の類別について理解している。
	少年の日の思い出 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる	語り手の転換に注意しながら、全体が前半と後半の二つに分かれていることを確認する。僕」の心情の変化をまとめる。	【思・判・表】文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使い、語感を磨いている。
	文法への扉3 単語の性質を見つけよう	「自立語と付属語」、「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」について理解する。	【知・技】単語の類別について理解している。
3月	随筆二編 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる	語句や表現の工夫に着目する。・印象に残った語句や表現を挙げる。筆者の考えや思いについて話し合う。	【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。
	体験を基に随筆を書く、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。	具体的な材料を書き出す。・エピソードについて、材料を付箋に書き出す。構成を考える。・付箋などの記述を基に構成を考え、友達と助言し合う。随筆を書く。 ・書きだしや描写を工夫し、600～800字程度で書く	【知・技】体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に使っている。 【思・判・表】状況がイメージできるように、構成を工夫している。

令和7年度 年間指導計画・評価計画（2年 国語）

	教材名・指導目標・国語活動	学習活動	評価規準
4月	見えないだけ 読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	詩を通読し、好きな言葉や表現を発表する。友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
5月	アイスブラネット 文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。	登場人物の関係図をまとめ、それぞれの思いと物語における登場人物の設定について考える。	【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。
	枕草子 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる	冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。	【思・判・表】作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。
6月	魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする	進行案を作り、話の構成や提示資料を工夫する。役割分担や時間配分を決め、話す練習をする。グループごとにプレゼンテーションをする。相手や目的にいちばん適した提案をクラスで選び、その理由も含めて話し合う。	【思・判・表】アピールしたい点が効果的に伝わるように話の構成を工夫している。【態】粘り強く自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫しようとしている。
	クマゼミ増加の原因を探る 文章と図表などを結び付けその関係を踏まえて内容を解釈することができる。	全体と部分の関係に注意して、構成を捉え、文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。 【態】積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
7月	短歌に親しむ、短歌を味わう 観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えることができる。	短歌の特徴について、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている表現を抜き出す。好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。	【思・判・表】複数の短歌を比較し、言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えている。
	言葉 類義語・対義語・多義語 話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	類義語・対義語・多義語について理解して、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。	【知・技】類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
9月	モアイは語る——地球の未来 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について読解することができる。	筆者が考えるイースター島と地球との共通点を読み取る。イースター島の事例を示した理由について筆者の主張との関係に着目して考える。	【知・技】筆者の意見（主張）がどのような根拠によって支えられているかを理解しその根拠が適切かを吟味している。【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や論理の展開を考えている。
	立場を尊重して話し合おう 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。	地域や社会で話題になっていることの中から討論したいテーマを探す。広く情報を集めて自分の立場を決め、意見と根拠をまとめる。討論の流れや意見の伝え方や質問のしかたを捉える。	【思・判・表】目的や場面に応じて社会生活の中から話題を決め異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し伝え合う内容を検討している。互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。
10月	扇の的 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。	古典の文章独特の調子や響きに気づき、登場人物の言動から心情を考える。読み取ったことを基に自分の考えを述べる。「扇の的」に登場する人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方について、自分の考えを述べる。	【知・技】与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。((3)ア)【思・判・表】「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。
11月	仁和寺にある法師 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。	本文を読み、法師の勘違いの内容を整理した上で作者がどのように捉えているかを原文から考える。法師と同じような勘違いをした経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合う。	【知・技】現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。【態】積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。

月	漢詩の風景 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。	漢詩の特徴を生かして朗読し、漢詩特有の言葉遣いや調子に着目する。解説を手がかりに漢詩を読み味わって歌われている季節、情景、作者の心情を捉える。	【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。
1 2 月	君は「最後の晚餐」を知っているか 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりすることができる。	全文を通読して内容を捉え、文章を比較して、構成や表現の特徴を捉える。観点を決めて「君は『最後の晚餐』を知っているか」と『最後の晚餐』の新しさを比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を確かめる。筆者がなぜこのような書き方を選んだのか、目的や意図と結び付けて考える。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し考えたことを文章にまとめようとしている。
1 月	魅力を効果的に伝えよう―鑑賞文を書く 表現の工夫とその効果などを読み手からの助言などを踏まえ自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。	作品をじっくりと見て、書き出した付箋を見直し、よりよい語句や表現、それらの効果を考える。作品を知らない人が作品を見たいと思うような文章であるかという視点をもって推敲する。	【思・判・表】作品の魅力が伝わるよう、作品に描かれている様子を具体的に説明している。 【態】進んで表現の効果を考えて描写し今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとしている。
2 月	走れメロス―作品の魅力をまとめ、語り合おう 登場人物の言動の意味を考え、内容を解釈する。根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	「メロス」の行動や考え方について、共感できたところ・できなかったところを、理由と共にまとめる。何に着目して作品の魅力を捉えたかを考え、他の作品を読むときにも生かせそうな観点を挙げる。	【思・判・表】・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 【態】積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。
3 月	研究の現場によこそ―日本に野生のゾウやサイがいた頃 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。	本文を通読し、教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。
	構成や展開を工夫して書こう―「ある日の自分」の物語を書く 伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。	これまでに学習してきた物語や小説を振り返り、作品の設定や構成、登場人物の心情の変化について確かめる。物語を書くときに、どんな点を生かしたいかを考えながら書く。	【思・判・表】起承転結の流れで構成を考え、場面の展開が明確になるように、それぞれの場面での出来事や心情を整理している。
	言葉 話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。	話し言葉と書き言葉の違いについて考えた上で学校生活の話題を簡単な話し言葉と書き言葉で表現してその違いに気づく。	【知・技】話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。
	漢字 送り仮名 常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。文章を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	木 詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	詩に登場する表現技法の効果を考え、作者のものの見方について話し合う。詩から読み取った作者のものの見方について、自分のこれまでの知識や経験と結び付けて考える。	【態】進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。

令和7年度 年間指導計画・評価計画（3年 国語）

	教材名・指導目標・国語活動	学習活動	評価規準
4月	世界はうつくしいと 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	自分なりの解釈を踏まえて、詩を朗読し、最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	握手 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。	「ルロイ修道士」の場面ごとの状況や立場、年齢などを踏まえ、エピソードから読み取れる性格や価値観、ものの見方や考え方を捉える。	【思・判・表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えようとしている。
5月	学んで時に之を習ふ——「論語」から 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。	「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。 教材の書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しに注意して、繰り返し朗読する。	【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとしている。
	作られた「物語」を超えて 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる	本文を序論・本論1・本論2・結論に分け、ゴリラなど野生動物の事例から、筆者の主張に至る論理の展開を説明する。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。
6月	思考のレッスン 具体化・抽象化 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。	文章を読んだり書いたりするときには、具体と抽象の関係についてどんなことに注意すればよいか確認する。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。
	漢字に親しもう 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 漢字の音訓、部首、送り仮名などの既習事項を思い出す。	【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	文法への扉 すいかは幾つ必要？	P212「文法1 文法を生かす」を読み、文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認する。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めている。
	実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。	報道文には発信者の意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に意識していきたいと思うことを伝え合う。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。
7月	俳句の可能性 俳句を味わう 文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。	・俳句の特徴にはどのようなものがあつたか確かめる。 ・次に俳句を作るときに参考にしたい語句の使い方や表現のしかたをまとめる。	【態】進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
	和語・漢語・外来語 和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	P79「生活に生かす」を読み、和語・漢語・外来語をどのように使い分けるのがよいか、生活の中の具体的な場面を想定して考える。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	読書を楽しむ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。	教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てる。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
9月	挨拶——原爆の写真によせて 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語	作者は、この詩の中で、どのようなことを考え、伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。

	感を磨き語彙を豊かにすることができる。		
	夏草——「おくのほそ道」から 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。	・芭蕉の「旅」に対する思いが読み取れる部分を抜き出し、現代の「旅」がもつ意味と比べる。 ・高館や光堂での芭蕉の思いを想像する。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
	漢字に親しもう 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。
10月	故郷 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。	・読み深めたことを踏まえ、作品のもつ特性や価値について批評する。 ・「学習の窓」などを参考に批評の観点を決め、本文や調べてわかった事実を根拠に論じたり、評価したりする。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。
11月	多角的に分析して書こう 説得力のある批評文を書く 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。	広告の例を参考に、対象とする事柄の特性や価値などについて、観点を決めて客観的に分析し、自分の考えを書き出す。	「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。
	和歌の世界 古今和歌集 仮名序 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。	「和歌」を植物の種と葉にたとえていることを知り、現代語訳や語注を参考に、作者が和歌をどう捉えていたかを想像する	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。
12月	文法への扉 「ない」の違いがわからない？ 単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解することができる。	「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを知る。	【態】単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて進んで理解し、これまでの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
	書初め 楷書と行書の特徴を理解しながら書初め作品を作成する。	楷書は、字形や漢字と仮名の文字の大きさに気を付けて書く。 行書は、点画の連続と変化を考えながら書く。	【知・技】適切な筆遣いや字形、漢字と仮名の文字の大きさに気を付けて書いている。
1月	温かいスープ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。	時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。 ・当時の状況がわかる語句や文に線を引き、筆者の思いを想像する。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
2月	わたしを束ねないで 詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。	作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。 ・詩に込めた作者の思いを想像し、現代に生きる自分たちの可能性について話し合う。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。
3月	三年間の歩みを振り返ろう 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。	P225の小説を読み、学習課題に取り組む。 ・表現を基に、登場人物の心情を考えたり、根拠を基に、自分の考えを書いたりして問題を解く。 ・先人の知恵や文化が受け継がれた言葉の一つを取り上げ、その意味と由来を説明する。	【態】粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。